

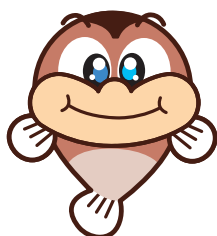
しまねっ湖



シュレーゲルアオガエル *Rhacophorus schlegelii*

体長3～5cm。平野部の田んぼに生息するあざやかな緑色をしたカエルです。水田に水が張られる頃、繁殖期を迎えたオスは、大きく喉を膨らませ「コロコロ」と木製の鈴をふったような声で鳴きます。似た鳴き声のモリアオガエルと間違われることがありますが、シュレーゲルアオガエルの方がより高い音を出します。

(浅津紳司)



No. 79
2024. Summer

CONTENTS

特別展報告	2
ゴビウスのなかまたち	3
みんなでたのしむ生きものガイド / イベント報告	4

南の海のハゼたち

3月13日（水）～5月6日（月）に、第56回特別展「南の海のハゼたち」を開催しました。「ハゼ」と聞くと、地味な色で、底の方でじっとして、あまり目立たないという印象があるかもしれません。ハゼのなかまは、世界中の淡水・汽水・海水などのさまざまな場所に2,000を超える種が生息し、形や色、くらしかたもバラエティに富んでいます。

今回の特別展では、特に多種多様なハゼが見られる「南の海」に注目し、サンゴ礁周辺でくらすハゼの特徴や、その環境について紹介しました。

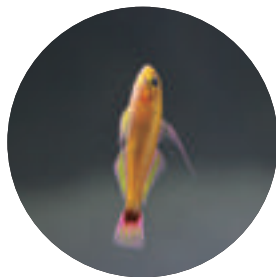


特別展会場

特別展会場では、枝サンゴの周りでくらすキイロサンゴハゼや、仰向けで泳ぐ姿が特徴的なアオギハゼ、カラフルなハタタテハゼ、テッポウエビと共生するヒレナガネジリンボウなど全16種を展示しました。また、水槽の上には展示しているハゼの特徴をパネルで紹介しました。



キイロサンゴハゼ



アオギハゼ



ハタタテハゼ



ヒレナガネジリンボウ

南の海にくらすハゼは、汽水・淡水にくらすハゼとは違った見た目をしていたり、他の生きものと共生をするなどの少し変わった特徴をもっていたりするので、来館された多くの方が「これもハゼのなかまなんだ!」と驚かされていました。

中央に配置したパーテーションでは、サンゴ礁のどんな場所にどんなハゼが生息しているかを紹介しました。



中央パーテーション

会場には、特別展リーフレットとハゼのぬりえを配架しました。ご家庭でリーフレットを参考にしながら、ぬりえに楽しくチャレンジしていただけたと思います。また、会期の前半と後半で、3種類ずつ計6種類、ハゼの写真入りじゃんけんカードを配布しました。



リーフレット・ぬりえ・じゃんけんカード

今回の特別展では、南の海にくらすハゼたちの特徴やサンゴ礁の環境について紹介しました。展示を行ったハゼたちを通して、ゴビウスで常設展示している汽水・淡水のハゼにもより興味を持っていただけたら嬉しいです。

(松本千優)



ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま ワカサギ

ワカサギは、その美味しさから、宍道湖七珍のひとつに挙げられ、山陰地方では「アマサギ」の名前で親しまれています。冷たい水に適応しており、島根県は自然分布の南限となっています。過去には、宍道湖にたくさんいたワカサギですが、近年、個体数が減っており、今では、幻の魚と呼ばれる存在になってしまいました。現在、島根県や宍道湖漁業協同組合によって調査や仔魚の放流が続けられています。

ゴビウスでは、野外で集めることが難しい宍道湖産のワカサギを周年展示するため、水槽内での繁殖に取り組

んでいます。ワカサギは、水温が10℃前後となる2月頃に、水底に卵を産みつけるので、この時期水槽の底に卵を付着させるためのマットを沈める方法で、卵を回収します。産まれてから1ヶ月程度は、体は透明で、エサとなる動物プランクトンを食べて成長します。5月頃には、姿や形がワカサギらしくなってきます。順調に成長したときは、今までの苦労を忘れるくらい嬉しい気持ちになります。これからも繁殖を通じて、ワカサギの魅力を伝えていきたいと思います。

(森永和希)



ワカサギの成魚



ワカサギの仔魚

淡水のなかま タカハヤ

今回の主役のタカハヤは、河川の上流から中流域の流れが緩やかな淵でよく群れています。大きさは10cm程度で、暗褐色の体には黒い斑紋と金色の斑点があります。うろこは他の淡水魚を比べると小さく、体表は粘液でヌメヌメしています。雑食性で、野外では流れてきた水生昆虫や石に付いた藻類等を食べています。

もう何年も前の話ですが、展示生物の採集のため島根県東部の川に出かけたときのことです。川岸を歩いている時に、少し先の淵にタカハヤの群れを見つけました。「何かを水面に落としてみたら、タカハヤの群れはどんな動きをするかな？」と思い、小さな石を投げこんでみると、何匹かが水面の波紋に集まるような動きをしました。厳しい生存競争の中で、エサを食べるチャンスを逃さない、タカハヤの素早い動きを見ることができた瞬間でした。

そんなタカハヤですが、飼育下では比較的早く水槽や飼育スタッフが与えるエサに慣れ、赤虫やアカアミはもちろん配合飼料への食いつきも良いです。食い意地が張りすぎて、腹がパンパンになるくらい食べてしまうことがあるので、エサの与えすぎに気をつけることも飼育スタッフには求められています。

(中野浩史)



島根県では「ドロバエ」や「ドロンバエ」の地方名で呼ばれています。



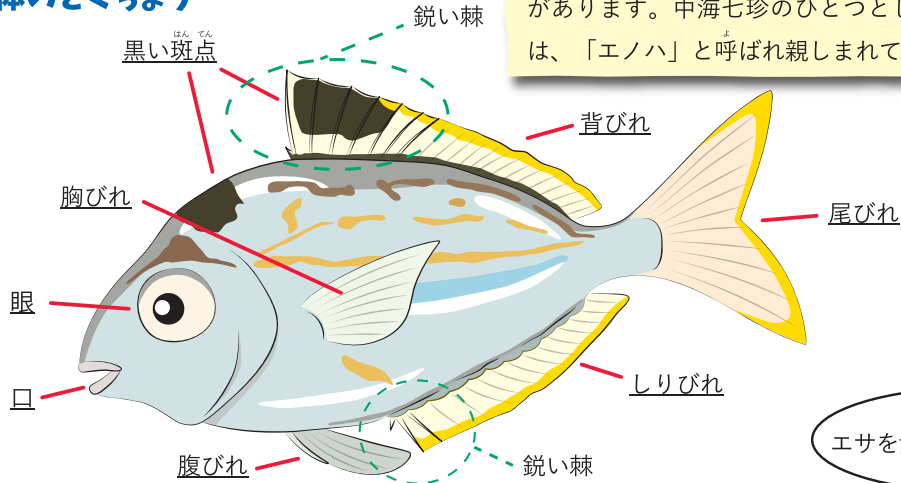
ヒイラギのひみつ

なまえ：ヒイラギ

生息地：南日本の沿岸域から河川汽水域

銀白色で平らな体をしていて、背びれやしりびれには鋭い棘（さく）があります。中海七珍のひとつとして挙げられ、中海周辺では、「エノハ」と呼ばれ親しまれています。

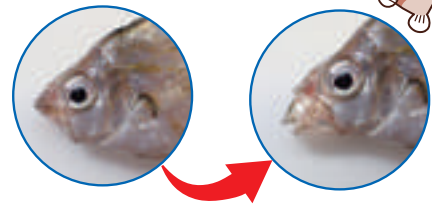
体のとくちょう



伸びる口

ヒイラギは、下方へ伸びる口をもっています。エサを食べるときに一瞬だけ伸びた様子を見ることができます。この口を使って海底にいるヨコエビやゴカイなどを吸い込むようにして食べます。

エサを食べるときに伸びるよ！



音を出す

水中から出すと「ゲーゲー」と音を発することがあります。人間のようにのどから音を出しているわけではなく、口の中にある骨をこすり合わせ、音を出します。

名前の由来

ひれにある棘と平たい体が、樹木のヒイラギの葉によく似ているため、同じ名前が付けられたとされています。樹木のヒイラギを漢字で「柊」と書くため、魚のヒイラギもよく似た「柊魚」や「終」と表記されることがあります。

(逢坂香織)

イベント報告

～「ゴールデンウィークイベント」編～

ゴールデンウィーク中に、クイズラリーと特設キッズコーナーを開催しました。クイズラリーでは、「鯨の釣ではたやは釣れぬ」といった地方に伝わることわざなど5つを紹介し、登場する生きものについてのクイズを出題しました。キッズコーナーでは、食物連鎖をテーマにしたぬいぐるみや、マグネット魚釣りを用意して楽しんでもらいました。

※鯨を釣る小さな釣では、鯛のような大きな魚は釣れないことから、わずかな利益を与えても、人を動かすことはできないということのたとえ。

(坂本 脩)



特設キッズコーナーの様子

ゴビウスニュースレターしまねっ湖 No.79

発行日／2024年6月15日

発行／島根県立宍道湖自然館ゴビウス（管理運営：ホシザキグリーン財団）

〒691-0076 島根県出雲市園町 1659-5

TEL 0853-63-7100 FAX 0853-63-7101

URL www.gobius.jp/ E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示

氏名または名称：公益財団法人ホシザキグリーン財団

事業所の名称：島根県立宍道湖自然館

動物取扱業の種別：展示

登録番号：第073102040号

登録年月日：2007年5月17日

登録有効期限：2027年5月16日

取扱責任者：佐藤 充